

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170501589		
法人名	有限会社 シャイニング		
事業所名	グループホーム トロの森 1Fユニット		
所在地	札幌市清田区美しが丘4条7丁目7-12		
自己評価作成日	平成22年8月25日	評価結果市町村受理日	平成22年11月24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170501589&SCD=320
-------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成22年10月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①地域との交流:町内会の役員を引受け、積極的に活動への参加に努めています。また、町内の皆様も施設を訪ねて畑の先生役をお引き受け下さる等、多くのご協力も頂いております。又、児童会館のお子様との交流も入居者の皆様の楽しみとなっています。

②地域との助け合い:施設に設置されている消防への、自動火災通報装置の自動電話連絡には、ご近所の皆様が登録を下さっており、非常時には駆けつけて下さるようなシステムになっています。又、当施設のAEDを地域に解放しております。③認知症理解への啓蒙:職員が講師となり、寸劇を交えた「ケアケア交流講座」を定期的開催し、入居者も含めて、家族・地域等の方々と楽しく学習会を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然環境に恵まれた閑静な住宅街に位置している当事業所は、運営者が身内の介護体験や自身の医療現場での看護師経験から、尊厳あるその人らしい当たり前の暮らしを支援することを根幹として開設した。開設9年目を迎え、定期的に開催している「ケアケア交流講座」では職員が講師となり認知症の勉強会や相談会を行い、交流を深めている。また、避難訓練も地域住民の協力体制が整い、自動火災通報装置の連絡先に住民の登録をもらっている。清田区内のグループホームと協働し、毎年区民センターで文化祭を開催し、利用者が地域社会で活躍する場面づくりにも取り組んでいる。運営者は職員に外部研修受講を積極的に促し、ケアサービスの質の向上に努め、より良いチームケアを行っている。地域住民に気楽に立ち寄ってもらい、お茶を飲みながらおしゃべりを楽しもうと月に1度「おしゃべりルーム」を開き、地域に向けて事業所を開放している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	認知症を理解してもらい、開放されたグループホームを目標にしている	開設当初に作り上げた理念が、事業所の状況の変化によって現状にあった理念であるか、毎年行う開設記念祈禱祭を機会に常に立ち戻り確認している。地域密着型サービスの意義や役割を職員と共に考えながら、理念の具現化に向け取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	あらゆる場面で職員に教育している。家族、地域との関わりや認知症の理解に努めている(町内会役員になっている・町内の行事へ参加・自主的なゴミ拾いの実施・児童会館との交流)	運営者は町内会の役員としても活動し役割を担っており、地域の行事には積極的に参加している。地域向けに「風になりたい」を発行し事業所の様子を紹介している。月に1度事業所を開放し「おしゃべりルーム」でお茶会を開く等、地域住民と触れ合う機会が多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報誌、ケアケア交流講座・認知症サポーター養成講座・避難訓練・救命救急講座の開催・AEDの地域への開放		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、町内の方や消防、地域包括支援センターの方が参加され、当ホームの現在の状況や実施したことを発表したり、意見をもらっている・昼食体験の実施	運営推進会議を2ヶ月毎に開催している。会議には、町内会役員、地域包括支援センター職員や消防署職員等多数の参加があり、事業所運営、行事、利用者情報、災害対策等について話し合い、参加者からの質問、意見、要望を真摯に受け止め、サービスの質の向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町内会長や町内役員と協力し、いろいろな行事に参加してもらっている。定期的にグループホーム便りを持参	運営者は実践者研修等の講師の依頼を受けたり、実習生を受け入れる等、市の担当者との協力関係を築いている。区の管理者会議やケア連絡会にも参加して情報の共有や問題解決の協議に努め、サービスの質の向上に取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	虐待防止の講習参加等、利用者への関わりや対応を見直し、拘束しないケアを実施している。必要な場合は家族に了解を得ている	職員は身体拘束に関する講習を受け、身体拘束の弊害を認識している。月に1度、身体拘束についての話し合いを行い、拘束のないケアに取り組んでいる。玄関は日中開放しており、利用者の出入りはセンサーと職員の見守りで確認し、自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の講習参加等、利用者への関わりや対応を見直している(ヒヤリハットの活用)		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加したり、生活保護の人に対して生活保護課と連絡を取っている。青年後見制度の利用			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	面談・体験利用等を行っており、家族を含めた担当者会議を行っている			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に利用者・家族も参加している 定期的にご意見用紙を送っている	家族とは運営推進会議や定期的に発送する意見用紙で率直な意見や要望等の聴取に努め、運営に反映させている。毎月発行の「トロメール」では事業所での利用者の暮らしぶりを伝え、家族の来訪時には連絡ノートを活用し、意向の把握に努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	合同ミーティング等や連絡帳の活用等	運営者は日々の申し送りや月1度の合同ミーティング等で、職員のケアに対する提案や業務等の要望を積極的に受け止め、運営に反映させている。また、伝達ノートを活用し、職員間の意思の疎通も図っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフ研修の機会をつくっている。地域・家族に向けて職員が講義を行う機会をつくっている			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修参加・対外的な場面で発表の機会を設けている・地域や家族に向けて認知症を伝える講師役を担う			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム交流会・施設訪問・他グループホームとの勉強会に参加			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	体験利用、面接を行っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	担当者会議、体験利用、面接を行っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアプランの作成 必要に応じて行政と連絡をとる		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として相談をしたり、指導をもらい、個々の残された力を生かされるよう支援している		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	サービス担当者会議、トロメール、連絡ノートの活用、行事へのお誘い、消防通報装置への登録		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お誕生会には馴染みの人を招待 長年利用している美容室へ行く	誕生会には親しい知人、友人が来訪し、命日には寺の住職が供養し、旅行先では親類と再会する等、継続的な交流に努めている。また、墓参りや選挙の投票、馴染みの美容室への訪問と、個々の生活習慣を尊重した支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常の生活動作を協力して行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	手紙や電話等で行事への招待を促している			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人、本人の希望を聞き、意見を尊重してケアに関わっている	センター方式を活用しながら、利用者一人ひとりの担当者を決め、日々の生活の中で、利用者の希望や意向の把握に努め、希望に沿った生活支援を行っている。また、職員間で情報を共有している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式のシートを活用し本人や家族から情報を取っている			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式のシートを活用し本人や家族から情報を取っている			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ同士でモニタリングを行ったり家族カンファレンスを設けて家族や本人の意見を聞き、ケアに努めている	センター方式によるアセスメントを基礎に、利用者個々の担当者が事業所独自のシートを活用しモニタリングを行い、気付きや意見を月1度のミーティング時に全職員で話し合い検討している。さらに、家族カンファレンスを設け、家族の意向を踏まえた個別の介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の言葉を記録に書くようにしている。スタッフ間で気づきを共有できるよう、気づきのメモを残すスペースを作っている			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外泊、外出を家族の状況に合わせて支援している。個人の希望に沿って買い物や外出を支援している			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	区民センターのお祭りやフォーラムへの参加 図書館の利用・児童会館との交流・町内会の旅行に参加			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前に管理者よりかかりつけ病院の説明(医師へも事前に情報を提供)をし、家族より同意を受ける。受診時には家族へ結果を報告している	協力医療機関による定期的な受診支援を行っており、医師や看護師とは良好な信頼関係を築いている。利用前からのかかりつけ医の受診も支援し、利用者が適切な医療を受けられる体制を整備している。家族とは情報の共有も図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	急変時にはかかりつけ病院へ相談をし指示を受ける。又、デイサービスの看護職員に状況を把握してもらおうと共に相談援助を受けている			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はホームから情報提供書を送ると共に、職員は毎日お見舞いに行き看護師から本人の情報を聞くなど関係作りをしている。誕生会等ホームの行事へ参加してもらい関係作りをしている			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に管理者が医療行為についての説明を行っている。家族より終末期に関する希望(同意書あり)をもらい、実際に重度化した時には家族カンファレンスを行い、その後の方針を決めている。事業所で看る場合は主治医や訪問看護の協力を得る	重度化や終末期への対応指針については、利用開始時に利用者及び家族に十分な説明を行い理解を得ている。事業所では看取りを経験しており、そのような事態には家族や医師、管理者等で常に話し合いながら最善の方策を協議し、その内容は職員全てが共有し重度化や終末期に適応した支援を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	1年に1回、救命救急の研修を受けている。病気や怪我ごとに対応方法が記載されているマニュアルがある			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災講習、避難訓練を全職員が行い、地域とは非常時連絡網を作成し、協力を築いている。自動通報装置には地域住民の方が登録し、すぐに駆けつける体制ができている	年2回、昼夜想定した防災訓練を地域住民を交えて全職員で実施し、地域住民も登録した自動通報装置も設置し、今年度中にはスプリンクラーも配備する等、体制を整えている。防災管理者は毎月事業所内を点検し、職員間では誘導のイメージトレーニングも行い、備えに努めている。	消防署の企画により、自衛消防団を各グループホームに担当付けする事が決まり、具体的にどの様な体制づくりに取り組むか検討中との事で期待される。さらなる取り組みとして、災害発生時に備えて、非常用食料、トイレ、寒さをしのげる様な物品を準備することが望まれる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに関することは個別で対応し、尊厳を損ねないように支援している	職員は常に利用者一人ひとりの誇りを大切に、優しい声かけや敬意のある対応に配慮している。記録等の個人情報の扱いについては、個人情報保護法に対応した取り組みを行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択肢のある促しで自己決定できるように支援している			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の自己決定を尊重し、個人の行いたいことにそって関わりを持っている			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、外出時に個別に声掛けし、好みのおしゃれを支援している			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人に好きなものや好みの味付けを聞き、一緒に味見をしながらつくっている。本人の出来ることを把握し、手伝いを依頼している	献立は栄養士が旬の食材を利用しながら、栄養のバランスを考慮し、個々の身体状況に合わせて作成している。食材の買出しや食事の下ごしらえ、配膳、片付け等を利用者と共に行いながら、家庭的で和やかな雰囲気の中、職員と一緒に食事を楽しんでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士と相談をしながら個別に量や栄養バランス、食べやすい形態、水分量等を考慮し摂取を勧めている			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士の口腔ケア指導に基づいて個人個人行っている			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄パターンを把握し、誘導している	排泄チェック表を活用し、排泄パターンを把握した上で尊厳に配慮したさりげない声かけを行い支援している。日中は布パンツを使用し、自立に向けた排泄支援に取り組んでいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、時間を決め運動、食物繊維の多い食べものの提供、腹部マッサージの指導等行っている			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴剤を使用したり、暑いときには毎日のシャワー浴をしたりしている。ひとりひとりの身体レベルに合わせている	利用者の体調に充分配慮した入浴の支援を行っており、週2～3回の目安で実施している。体調によってはシャワー浴で清潔を保っている。また、身体レベルにより職員2名の介助で安全な入浴を楽しめるよう支援をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜に眠れなかった時は昼寝を促している。生活のメリハリをつけている			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の病状の把握と薬が変わったときにモニタリングする			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好みに合わせた外出やメニュー提供を、個別で対応している			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コンサート、外食、散歩、温泉等、買い物など地域の人や家族の協力を得て行っている	区のグループホーム交流会や温泉旅行、コンサート等の季節ごとの年間行事のほかに、散歩や買い物等、その日の体調を考慮しながら、利用者一人ひとりの希望に沿って外気に触れる機会を支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お供え物や本人の趣味のものを購入したりすることを支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望で電話をしたり手紙を書ける様に電話番号を控えたり便箋を用意したりしている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節により飾り付けや生花など置いている。利用者が使いやすいよう配置を心掛けている	事業所内はバリアフリー設計となっている。キッチン是对面式で利用者が手伝いやすくなっている。共有空間には食卓テーブルやソファ、畳スペースも用意しており、それぞれがゆったりと寛げる場所となっている。壁に飾っている行事の写真や趣味の習字、園芸作品、表彰状等の展示品が話題となり、和やかな時が過ごせる居心地の良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳、椅子があり静かに会話できる空間がある。一人になれるスペースを作っている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が長年使った家具や本を置いている	広さの異なる居室を用意しており、それぞれに使い慣れた家具を持ち込み、安心と安らぎある空間となっている。各々のベットやテレビ、仏壇、整理タンス等が整い、壁には思い思いの飾り付けを楽しみ、その人らしく過ごせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを設置したり昇降機をつけている		